

(議提議案第2号)

平成30年12月19日

議長 松本富男様

提出者	議員	松岡兵衛
〃	〃	小鮒賢二
〃	〃	守屋淳
〃	〃	野澤久夫
〃	〃	小林一貫
〃	〃	大久保照夫
〃	〃	大山美智子
〃	〃	千葉義浩

## 議案提出について

平成30年第4回市議会定例会（12月19日の会議）に下記の議案を別紙のとおり提出する。

### 記

〔議提議案第2号〕 群馬大学医学部附属病院に係る特定機能病院の早期承認を求める意見書

〔理由〕 群馬大学医学部附属病院における高度医療の提供や医師の養成及び確保を図り、もって地域医療の充実に資するべく、特定機能病院の早期再承認を求めるため

## 群馬大学医学部附属病院に係る特定機能病院の早期承認を求める

### 意見書

群馬大学医学部附属病院では、腹腔鏡手術を受けた患者が死亡する一連の医療事故が判明し、平成27年6月、特定機能病院の承認を取り消されたが、事故の判明以来、診療体制の見直しや安全管理体制の整備、病院開設者である群馬大学のガバナンスの強化など、再発防止に向けた様々な改革が徹底して進められている。

こうした取組は外部委員で構成される病院監査委員会からも高く評価され、これまで積み重ねてきた実績等を踏まえて、平成30年5月31日に厚生労働大臣に対して特定機能病院の再承認の申請が行われている。

また、遺族への対応についても誠実に取り組み、遺族との和解も大きく進展しているとのことで、特定機能病院の再承認に向けた環境は既に整っているものと考えられる。

一方、同病院では、難治性疾患を含む様々な症例の患者を受け入れ、最先端の高度医療を提供しているが、特定機能病院としての取扱いがなされないことにより、同病院の高度医療技術の研究開発や人材育成機能に支障を来しているという。

加えて、こうした状況が若手医師に対する不安感や求心力低下を招き、臨床研修医の採用数が大きく減少しているほか、本年4月に始まった新たな専門医制度では、同病院における外科と整形外科の専攻医が1名のみという、きわめて厳しい状況が生じているという。

同病院に本来期待される高度医療の提供や医師の養成・確保という役割がこのまま十分に果たされない場合、住民から必要な医療を受ける機会を奪い、地域医療の崩壊につながりかねない。

については、安全で安心できる市民生活を維持確保していくために、同病院について、特定機能病院としての早期の再承認を強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成30年12月19日

熊谷市議会

衆議院議長様

参議院議長様

内閣総理大臣様

厚生労働大臣様

内閣官房長官様